



人は好き好き

附属図書館長 母利司朗

「人は好き好き」という言葉があります。私が以前勤めていた大学の知り合いの理系の先生は、定年を間近に控えたころから、自宅の母屋の立て替えを考えられ、それをなんと、ネットオークションで集めた様々なアンティークを保存し公開するための「博物館」にされてしまったのです。しかもそれをわかりやすく紹介する本も出版されました。集められたものの中には、私の好きな和本や手紙といったものもありますが、骨董の王道である書画や陶磁器といったものが多いであろうことは想像にかたくありません。ところが本をめくっていくと、最後のあたりには、ちょっと首をかしげたくなる「アブナイ」ものや、不思議なものも数多く載せられています。ネットオークションの気軽さゆえの収集でしょうか。全体を通してみると、「ああ、人というのは、どうしてこんなに色々なものを作り出してきたんだろう」と感心せざるをえません。集めるのも作るのも、まさに「人は好き好き」です。

ある人にとって価値あるもの、有用なものが、他人にも価値あるもの、有用であるとはかぎりません。大学も、人が集まる、という意味では社会の一部なので、千差万別、色々な価値観をもった人が同居しています。自分と同じ世界にいる人、馬が合う人とつきあうのは居心地のいいものだからでしょうか。ストレスも感じず、つついその輪の中だけで固まってしまうがちです。しかし、いかがでしょう。4年間だけ、思い切って、「人は好き好き」を体で感じてみませんか。居心地の悪さやストレスを感じてみることも、これからのみなさんの長い人生には、ある程度必要かもしれません。自分の価値観と異なる人たちと同じ場にいるだけでも、自分だけでは一生得ることのできない貴重な経験となるはずです。とはいっても、生身の人間とばかりガチでつきあっていくのはなかなかしんどいでしょうね。そんな時、「人は好き好き」を地で行く図書館にある本が、きっとみなさんを少しだけ手助けしてくれるかもしれません。

図書館へようこそ。

(もり しろ：文学部 日本・中国文学科教授)



大学時代から読んだ本

図書館運営委員 大 島 和 夫

中学、高校とそんなに勉強に苦しんだわけではなかったのに、大学に入ったら思い切り遊ぼうと心に決めていた。1年目は実行した。ちょうど大学紛争の時期で、まもなくそれに巻き込まれた。自治会活動をしていて同じ学年の学生と話をしたとき、自分が本当に勉強不足であることに気づいた。それから本を読み始めた。法学部であったので法律の本も沢山読んだが、教科書や解釈学の本はほとんど読まず、渡辺洋三、藤田勇、片岡昇、戒能通孝、川島武宜らの本を読んだ。一番影響を受けたのは当時、岩波書店から発行されていた講座・現代法の第1巻と第7巻である。これが、わたしの法律学の出発点となった。2年生になるときに、民科法律の成果を勉強するための学生サークルを作らないかと声をかけられ、学生民科というサークルを立ち上げた。学生が何人か集まって読書感想や自分の意見を述べあい、チューターには院生が参加してくれた。

学生民科の毎週の例会では、最近の判例や、学会で注目されている論文なども取り上げたが、なんといっても強い影響を受けたのは、いわゆる古典だった。例会だけでなく、年に3回行われる合宿（たいていは三井寺の法泉院か普賢堂だった）で、著者の意図をめぐって議論した。

印象に強く残った順からあげると、マルク

スとエンゲルスのドイツイデオロギー、フォイエルバッハ論、家族・私有財産・国家の起源、賃労働と資本、反デューリング論などである。ほとんど知識のない段階から勉強したので、その影響は甚大なものであった。少しでも覚えるとそれを受け売りしてしまうという悪い癖があるので、周りの人はかなり被害を受けたと思う。

大学紛争が一段落した時期に大学院に進学した。このころから19世紀のドイツ法学の文献を読むようになり、サヴィニーとかイェーリンクとかギールケなどに関する文献にふれるようになった。ロマニステンとゲルマニステンの論争と言われるが、そこでも歴史認識と社会変革が争われていた。もっとも一番の勉強は研究室の先輩のお話をうかがうことだった。このころから、だんだんと自分の頭で考えなければならないということに気づいた。そこで、経済学の本も読むようになった。府大に来る前に30年間勤務した神戸市外国語大学に、わたしと同年代で遙かに優秀な経済学者が何人かいた。彼らから教わった知識はその後の財産となった。こうして、わたしの他力本願的な勉強が重ねられ、今日に至った。

今わたしは社会編成のあり方と、それを支える論理を勉強している。10年くらい前から本格的に始めたが、その中で最も影響を受けた本は以下の6冊である。1番目はアダム・

スミス「諸国民の富」。わたしが読んだのは 1959 年版の岩波文庫で、面倒くさい地代の部分さえ読み飛ばせば、とても痛快な読み物である。2 番目はカール・ポパー「開かれた社会とその敵」未来社で 1980 年出版である。注意しないといけないのは、この本は 2 部に分かれていて、読むべきなのは第 2 部の方である。間違っって第 1 部を買ってしまうと、延々とプラトンにつきあわされることになる。アジア人の私たちはプラトンを無視しても罰は当たらない。第 3 は、ケインズ「雇用・利子および貨幣の一般理論」東洋経済のケインズ全集第 7 巻で 1983 年の出版である。ただし、白状するとこの本を全部は読んでいない。資本論と一緒に部分的にしか読んでいない。ただし、他の人たちの解説は沢山読んだ。例えば宇沢弘文「一般理論を読む」岩波セミナーブックス、これがまたとても分かりやすい。第 4 はカール・ポラニー「大転換」東洋経済 1975 年出版である。最近新訳が出たが 2 回も読むのはしんどい。ポラニーは労働と貨幣と土地は、市場メカニズムに巻き込まれては行けないと主張するが、わたしはとてもそこまで断定する勇氣はなく、ただうらやましいだけである。しかし、彼が言う「悪魔のひき白」はまさにピッタリの表現である。第 5 は、シュムペーターの「資本主義・社会主義・民主主義」東洋経済 1995 年である。学生時代に

進められたが、学生では無理である。すごい一言につきる。読んでからしばらくは彼の言い回しにかぶれたほどで、昔映画館で「もえよドラゴン」を見た後でブルース・リーにかぶれたのと同じであった。第 6 はハイエク「法と立法と自由」春秋社 1987、88 年でハイエク全集の 8 巻から 10 巻に当たる。この本はハイエクが脳みそを絞り出すようにして 1973 年から 79 年にかけて公刊したもので、自由に対するこれほどの信念は他には見られない。ただし、この本の中身を理解するためには、スターリンのソ連と、ナチスドイツの歴史を知っておく必要がある。

最近、とても興味深い本を読んだ。ニコラス・ワプショット「ケインズかハイエクか」新潮社 2012 年である。天才ケインズとナチスに迫害されてロンドンに逃れたハイエクの対決の物語である。オーストリア学派の資本理論に対する評価が低いのが気にかかるが、ケインズの才気とハイエクの苦悩が、まるで映画のように描き出されていた。学問的な論争が、日本でもこのように描かれたらすばらしいだろうなと思ったが、残念なことに、オリジナルな思想に乏しいというのが日本の現状である。

(おおしま かずお：公共政策学部教授)

御紹介の「諸国民の富」大内兵衛・松川七郎訳 岩波書店 1969.5 刊 (請求番号 331.42 || S)、「開かれた社会とその敵」内田詔夫・小河原誠訳 未来社 1980.3 刊 (請求番号 133.5 || P)、「雇用・利子および貨幣の一般理論」塩野祐一訳 東洋経済新報社 1983.12 刊 (請求番号 331.74 || K)、『ケインズ「一般理論」を読む』岩波書店 1984.3 刊 (請求番号 331.74 || U)、「大転換」吉沢英成 他訳 東洋経済新報社 1975.4 刊 (請求番号 332.06 || P)、「資本主義・社会主義・民主主義」内田詔夫・小河原誠訳 東洋経済新報社 1995.6 刊 (請求番号 331.72 || S)、「法と立法と自由」矢島釣次・水吉俊彦訳 春秋社 2007.12 刊 (請求番号 331.72 || H) は、2 階閲覧室入口に配架していますので御利用ください。

ようこそ!



利用できる時間は?

- **開館時間** 9:00~21:00 (講義のある時)
9:00~17:00 (講義のない時)
※土日祝は閉館

詳細は、図書館 HP のカレンダー等を参照してください。



大学図書館の資料は本からデータベースまで!



小さい図書館ですが、16万冊以上の図書、1万タイトル以上の雑誌を所蔵しています。

一見専門書ばかりが並んでいるように見えますが、すぐに役立つ本もたくさんあります! 初めて住む京都を知る本、ひとり暮らしのための料理の本、小説も芥川賞、直木賞受賞作をはじめ、有川浩や東野圭吾など、学生さんからリクエストされた人気作家のものが入っています。

もちろん新入生ゼミナールの課題図書、レポートや論文の書き方や調べ方、基礎が不安な学生さんのための入門書も揃っています。

また、欧文が中心ですが、大学で契約している SpringerLink や EBSCOhost などのデータベースを利用して学術論文を読んだり、E-Book を利用することもできます。

また、欧文が中心ですが、大学で契約している SpringerLink や EBSCOhost などのデータベースを利用して学術論文を読んだり、E-Book を利用することもできます。



本の探し方は? 借りる時は?

本は、図書館 HP の本学蔵書検索 (OPAC) にキーワードを入れて検索します。

「OPAC」は、**O**nline **P**ublic **A**ccess **C**atalog の略。大学の中にある資料をパソコンで検索するシステムのことです。インターネット環境があれば学外からでも、携帯やスマホからも OK。

検索結果で「所在」と「請求記号」(本の背表紙のラベル)を確認し、その書架へ行って本を探してください。貸出手続きは、学生証と一緒に借りたい本をカウンターへ提出してください。

なお、学生証が紙の研究生等は、図書館利用カードを発行します。カウンターへお申し出ください。

正門から入ってまっすぐ行くと、テニスコートの南図書館です。閲覧室とカウンターは2階にあります。そこは「ドリームランド」かも?!
図書館なんてめんどくさいなあなんて言わないで。図書館は大学生活を応援しています!

	一般貸出 (2週間)	特別貸出 (1か月)
学部生 研究生など	6冊	/
大学院生	6冊	

※延滞中の図書がある方への新たな貸出はできません



※研究室にある本や雑誌、電子ジャーナル (一部除く)・電子ブックも検索できます。

「所在」の例

- ・開架 … 2F 閲覧室のこと。
- ・参考 … 2F 閲覧室西側付近。背表紙に、禁帯出の赤いシールが貼ってあります。辞事典等で、貸出はできません。

新図書館の建設計画について

府立大学附属図書館、府立大学文学部に京都府立総合資料館を合築した「新図書館・文学部・新総合資料館合築棟（仮称）」（地上 4 階地下 2 階／約 24,000m²）の建設計画が着々と進んでいます。

現在の図書館は、1974年に竣工し、施設の老朽化や狭隘化など、建替が長年の懸案でした。

このため、教育環境条件の整備や耐震対応が急務な老朽化施設の整備として建設が図られるものです。

現在、建設工事に関する入札の手続きが行われており、今年の夏頃には工事に着工し、平成 27 年 10 月末には完成の予定です。

なお、皆さんが利用できる時期は、今の施設から書籍等を移転させる作業などの期間が必要ですので、もう少し遅くなります。

御理解いただきますようお願いいたします。

今後とも、大学の学習・教育・研究のための拠点施設として機能が充実され、また、学生、教職員の皆様に一層親しまれ、利用される大学図書館となるよう、引き続き、よりよい施設の建設に向けて努力していきますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



カレンダー

開館時間等

9:00～ 21:00	9:00～ 17:00	休館 土日祝
----------------	----------------	-----------

☆閉館時の図書の返却は、図書館西側（喫煙コーナー付近）の返却ポストをご利用ください。

2013年4月							2013年5月							2013年6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
														30						